

熱が出た

逆に36度未満の**低体温**にも注意!



発熱は体の負担となりますが、防御反応のひとつです

人間はウイルスや細菌などの病原体に感染すると熱を出して、体内に入り込んだ病原体の活動を抑えようとしてます。平熱よりも1度以上高く、環境を整え、時間を置いても下がらないなら発熱といえます。他にもいつもと違う様子が無いか確認しましょう。(普段から体温をはかり平熱を知っておくことも必要です)
赤ちゃんは体温調節機能が未熟なため、室温や衣類の着せ方によって体温が上がることもあります。

発熱で一番怖い病気の代表が『髄膜炎(ずいまくえん)』です

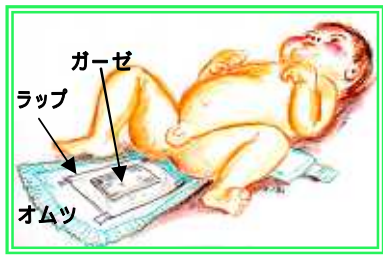
髄膜炎の場合、頭や首などが痛くて首を前に曲げにくくなります。ですから、もしお子さんが、お気に入りのおもちゃを下に置いて、あごが胸に付くくらい目線を落とし、機嫌よく遊べていれば、髄膜炎の可能性は低いと思います。ただし乳幼児期にはそういう症状が出にくい場合もありますので、3つの症状がある場合は早期相談・早期受診が必要です。

子どもの急な発熱で受診をした方が良いか悩んだときは、小児救急電話相談「#8000」を利用しましょう。(詳しくはP1を参照)

小児救急電話相談「#8000」を活用しましょう(P1参照)

受診前には必ず確認の電話を病院へ!
解熱剤の座薬や頓服をいつも家にストックしてね!
これは痛み止めとしても使えます。
大人に使う薬は子どもには**代用禁**とします!

1回目の体温測定後、適切な室温や衣服で安静にさせ、30分後にもう一度測る



オムツをしている子の尿採取方法
自宅で受診する前にセットすると受診時の尿検査がスムーズです。

38度以上のとき
赤ちゃんが生後早期(0~3か月)
(通常3か月未満のこと)
赤ちゃんが4か月以上

熱が下がった

37.5度以上
38度未満のとき

発熱以外はいつもと変わらない
機嫌・活気・哺乳力も普通で
顔色も良く、周りに興味を示す

様子を見る

逆に36度未満の低体温の時も要注意・要相談!

機嫌が悪い、または発熱以外にいつもと様子が違う

診療時間外でも電話相談して受診場所や時間を決めておく
(左記の月例別対応や他症状のチャートも参考に)

発熱以外にいつもと変わらない
機嫌・活気・哺乳も普通で顔色も良く周りに興味を示す

重症感が無くても時間外でも(必ず電話相談して)小児科を受診すること
発熱以外にも症状の悪化があれば速やかに小児科を受診する
1か月未満の赤ちゃんは入院になることが多い

機嫌が悪い、または発熱以外にいつもと様子が違う

出来るだけ早く小児科を受診!
救急車の必要があるかどうかは上のイラストのコメントを参考に!
わからない時は電話相談!!



発熱以外にいつもと変わらない
機嫌・活気・哺乳も普通で顔色も良く周りに興味を示す

診療時間内にかかりつけ医院へ

機嫌が悪い、または発熱以外にいつもと様子が違う

診療時間外でも電話相談して受診場所や時間を決めておく
(発熱対応や他症状のチャートも参考に)

「顔色不良」なうえ
「顔面蒼白やチアノーゼ」
「呼吸が弱い」
「意識が無い」
「言動がおかしく視線も合わない」
「5分以上のけいれん」
などの時は**救急車を!**

医師に伝えること
・熱は何度あるか
・熱はいつごろからか
・熱以外の症状について
・食事や水分は取れているか
・おしっこが出ているか

全てのチャートはあくまでも目安です。症状は人によって異なるため様子をよく観察し、心配な時は受診すべきかどうかを電話で相談しましょう。